

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300592		
法人名	社会福祉法人 愛心会		
事業所名	グループホーム高砂		
所在地	徳島県阿南市那賀川町芳崎366-1		
自己評価作成日	平成28年12月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成29年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は静かな田園の中にあり、車両の通行も少なく、危険が少ない状況で屋外歩行が楽しめ、またホールから広々としたベランダへ常に入出入り可能で天候に合わせ外気浴も行える。利用者は事業所の行事と隣接の介護老人保健施設の地域の方を招待しての納涼祭・合同記念式典・敬老会などに参加している。地域との交流として幼稚園や小学校との慰問なども楽しんで頂いている。医療面では訪問診療・訪問歯科診療・訪問看護との連携を図り体調面の管理、急変時の対応を強化している。ご家族との連絡も密にとって近況の報告、意向を踏まえ相談を行っている。また、定期採血などの結果を受け、食事面からも栄養状態の改善などを図り利用者一人一人に合わせたケアを行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、海と山に囲まれた自然豊かな環境に位置している。管理者と職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、健康に留意しつつ、住み慣れた地域で、地域の一人として生活を継続することができるよう支援している。職員は、法人本部の各種委員会や研修会等に参加するなどして、支援の質の向上に努めている。職員間で、研修会の内容等を報告し、ケアに活かしている。協力医療機関との医療連携体制を密に図り、定期的な訪問看護や往診がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を出勤職員全員で唱和している。職員一人一人が日々理念に沿った援助が出来るよう取り組んでいる。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念を掲げている。管理者と職員間で理念について話し合っている。日頃の支援を通じて、理念の共有化を図るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のこどもセンターとの交流や市内の慰問グループなどにも声を掛け交流を図っている。合同敬老会や合同記念式典などに地域の方を招待し交流を図っている。	事業所では、地域の清掃や花の苗を植えるなどの美化活動に参加している。併設の事業所と合同で行う敬老会や納涼祭等には地域の方たちの参加も得ており、利用者との交流の機会となっている。また、地域住民の認知症ケアについての相談にも応じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の生活状況を運営推進会議で報告し、認知症利用者の現状などに理解を頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お世話センターや民生委員との意見交換などで情報を共有し、職員の知識やサービス向上を目指している。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。利用者の状況や行事、研修等の報告を行うとともに、出席者から助言や意見等を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を要請、市が主催する研修などへも積極的な参加を心がけ密接な関係を築いている。	管理者や職員は市担当窓口に出向いている。各種書類の提出を行ったり、事業所の現状を報告したりして、アドバイスを受けている。市担当者からも各種研修の情報提供等があり、協力関係ができていく。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じ、全職員が身体拘束、また「認識していない」拘束への理解を深めている。	事業所は建物の2階に位置していることから、玄関正面に階段があり、転落防止や完全確保等のため施錠を行っている。職員間で話し合うなどして、利用者一人ひとりが閉塞感を感じることはないよう支援に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じ、高齢者虐待についての正しい知識と理解を深めている。「認識していない」虐待についても認識の違いの無いように上司等が指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度を利用された利用者もおられた。利用者家族より成年後見制度に関する相談もあり理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の内容を十分に説明し同意を得るようにしている。改定時は随時説明し疑問点への理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議などを活用し意見・要望を聞き運営に反映できるように努めている。	事業所では、玄関に意見箱を設置するなどして、利用者や家族等の意向や希望を聞くようになっている。家族等の来訪時にも意見を聞くようになっているが、来訪者数が多くないことから、意向の確認方法を工夫するようになっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や個別聞き取りの機会を設け職員の意見が反映できるように努めている。	管理者は、申し送りの際に職員から意見や提案を聞くようになっている。日頃の利用者との関わりを通じて気づいたアイデアや提案を運営面に取り入れるようになっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価が実地されており資格手当が支給されている。また法人内で資格習得のための勉強会なども開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務内でその場での指導や法人内での月1回の勉強会や外部研修への自発的な参加にて、技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オレンジカフェの参加や同業者との連絡を取り合うなどで情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者本人と面談を行い、生活状況や思いを聞き取り、安心して生活していただけるよう説明等を行い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、状況や困っていること、不安なこと、思いなどを、お聞きしている。また施設の内容や雰囲気をご理解いただけるよう説明を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者の状況、ご家族様の希望や思いを聞き取り、支援を見極め必要に応じて関連施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の出来ることに着目し、職員と一緒にいったり、また教えていただくなどし、お一人お一人が思いや生活歴を反映できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などにて日々の様子を報告し、利用者本人の思いなどを伝えている。家族の方と共に考え相談できるような関係を築けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人が訪ねてきたり、花見遠足などで馴染みの場所に行くなどの支援を行っている。また、長期に入居されている方はホーム自体が馴染みの人や場所となっている。	事業所では、利用者の友人や知人の来訪時には、居室にお茶を出すなどしている。家族の協力を得るなどして、お墓参りや馴染みの理・美容院へ出かけることができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や相性などを考慮し、孤立しないように、共に楽しめるようにレクや作業をしていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居・入院となった利用者に対しても本人への面会などを行い、関係が途切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望、意向を受容できるようによく話を聞くように努めている。また本人からお聞きする事が困難な場合には生活の様子をよく観察し思いを汲み取ることが出来るように努めている。	事業所では、利用者一人ひとりの担当制を取り入れている。職員は、利用者同士の何気ない会話に耳を傾けるなどして希望や意向を把握するようにしている。意志の表出が困難な場合も、日々の生活の関わりの中で思いを汲み取り、職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や職業・家族構成なども把握し、適切なサービスへとつないでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方が何が出来るのか、どんなことがことを好まれるかなどその方のらしさを大切に、また日々の表情や状況を観察し状態を職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れるよう努めている。職員全体で情報を共有し意見を出し合い作成している。	事業所では、担当職員や看護師等の意見を参考に介護計画書を作成している。作成した介護計画書を家族に示し意見を得るよう努めている。本人の心身状況や希望等の変化に応じて見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に介護計画を挟み介護記録を記入している、また申し送り時に話し合い情報を共有しより良いケアの実施、介護計画の見直しに生かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する施設の意見を取り入れ栄養状況や急変時の対応など知識を提供してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問や隣接施設への訪問・合同行事なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用者・家族に希望をお聞きし、納得いただければ、協力病院の医師がかかりつけ医となり問診診療や訪問歯科にて適切な医療が受けられるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援している。家族の協力を得るなどして、専門医の受診もできるようにしている。また、職員が同行することもあり、利用者の様子などを伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や異常があれば、週1回の訪問看護以外でも密接に連絡をとり適切な医療や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療を通じ、普段から医師へ利用者の状況を密に上申し、入院時に適切な判断を行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に対し重度化した場合の対応について説明している。	事業所では、看取りに関する指針を作成している。契約時に、終末期に関する事業所の方針等を、本人や家族に説明している。管理者が中心となって、職員研修に取り組むなどして、支援の質の向上に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、勉強会などで全職員に伝えている。消防署の協力を得て蘇生術やAEDの使用法を実習し、スキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。避難訓練を行っているが、地域住民との合同訓練などは行っていない、民生委員の方にご協力していただけるようお願いし検討していただいている。	年2回、事業所では消防署の協力を得るなどして日中と夜間を想定した避難訓練を行っている。火災の他に地震、水害等の各種マニュアルも整備している。同一法人内で施設間の職員連携体制も整えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応の見直し、過度の介護を行わないように留意し、自尊心を傷つけないように対応している。	職員は、利用者の気持ちを尊重し、見守りを重視した支援を行っている。また、利用者一人ひとりの自尊心を傷つけることのないよう、自己決定しやすい言葉かけをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる状況や環境づくりに努めている。意思表示が困難な方に対しては職員が日頃の生活の中から思いを汲み取るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の内容は臨機応変に変更し、ご利用者様のペースで過ごしていただけるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の状況に応じて声かけや介助を行っている。移動散髪を利用されている利用者は好みの髪形にてもらおうなどおしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで食事をとり、会話を楽しまれている。また、可能な方は下膳やテーブル拭き、お盆拭きなどをお手伝いいただいている。	利用者は、献立をメニューボードに記載したり、もやしの根を取るなどの下ごしらえを手伝ったりしている。職員は、利用者の状況に応じて食事介助を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行っている。食事の形態や好みに合わせて個別にメニューの変更なども行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを実施して頂いている。協力歯科医のアドバイスも頂き、口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンやサインを理解するように努めトイレで排泄していただけるように支援している。失禁時には自尊心にも配慮するようにしている。	事業所では、利用者の心身状況に応じて排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。職員は、利用者の羞恥心や不安な気持ちに配慮し、失敗した場合にも本人が傷つくことのないよう配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立で食事を提供し、運動と水分摂取を提供できるように心掛けている。毎日の排便チェックから、必要な場合は医師の指示を頂き適切に対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。また、季節に合わせてたゆず湯なども提供している。	事業所では、利用者の意向や希望に応じて、毎日の入浴を支援している。入浴を拒む場合には、言葉かけを工夫したり、入浴剤を活用したりして入浴を楽しむことができるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	故人の生活リズムを把握しその日の体調や状況に配慮している。夜間に眠れない時などには職員が助言や話し相手になるなどで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の投薬内容を把握し、異変がある場合は看護師、医師へ報告し指示を仰いでいる。服薬ミスがないように複数の職員による確認を行っている。調剤薬局の薬剤師からの助言等も頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや作業に参加して頂いたり、季節に応じた行事外出なども企画し参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って外出や外泊が出来るように家族の協力も頂き支援している。	事業所では、天候の良い日には、散歩に出かけたり、季節ごとの花見や外食に行ったりしている。家族の協力を得るなどして、お墓参りや一時帰宅、外泊などができるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			吉野川 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内ではほとんど使用する機会がなく、トラブル防止のため現金の管理は事務所でやっている。買い物に行くときにはご利用者自身が支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて家族に宛てての手紙や電話を掛けていただけるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度には常に気を配り、玄関やホールには季節に応じた環境作りをしている。ホールからベランダに出て季節を感じることができる。日当たりの良い場所にてファアを置きゆったりとした空間作りに努めている。	共有空間は明るく、居心地の良い空間となっている。窓際にはソファを配置するなどしており、利用者同士、または職員と談笑する憩いの場所となっている。トイレやお風呂、洗面所等も掃除が行き届いており清潔に保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂ホールでは仲の良い利用者同士で隣に座れるように配慮している。少し離れたソファなどで独りになることは可能である。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本居室は自宅と変わらない環境を整えて頂けるよう配慮している。テレビやラジオ写真などの他にも馴染みのある物を持って来られている。	事業所では、利用者が使い慣れた家具や家族の写真を居室に持ち込んでもらっている。位牌を持ち込んでいる人もいる。利用者と職員で相談し、居心地良く過ごすことのできる居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々の身体状況に配慮し、必要に応じて介護ベットを使用したり室内環境を整えている。浴室は手すりを多く設置し、安全確保を図っている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に理念を出勤職員全員で唱和している。職員一人一人が日々理念に沿った援助が出来るよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のこどもセンターとの交流や市内の慰問グループなどにも声を掛け交流を図っている。合同敬老会や合同記念式典などに地域の方を招待し交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の生活状況を運営推進会議で報告し、認知症利用者の現状などに理解を頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お世話センターや民生委員との意見交換などで情報を共有し、職員の知識やサービス向上を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加を要請、市が主催する研修などへも積極的な参加を心がけ密接な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通じ、全職員が身体拘束、また「認識していない」拘束への理解を深めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を通じ、高齢者虐待についての正しい知識と理解を深めている。「認識していない」虐待についても認識違いの無いように上司等が指導している。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前に成年後見制度を利用された利用者もおられた。利用者家族より成年後見制度に関する相談もあり理解を深めるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書の内容を十分に説明し同意を得るようにしている。改定時は随時説明し疑問点への理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会、運営推進会議などを活用し意見・要望を聞き運営に反映できるように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や個別聞き取りの機会を設け職員の意見が反映できるように努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課、自己評価が実地されており資格手当が支給されている。また法人内で資格習得のための勉強会なども開催している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務内でその場での指導や法人内での月1回の勉強会や外部研修への自発的な参加にて、技術や知識の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	オレンジカフェの参加や同業者との連絡を取り合うなどで情報交換を行い、サービスの質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	那賀川	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援								
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、利用者本人と面談を行い、生活状況や思いを聞き取り、安心して生活していただけるよう説明等を行い関係づくりに努めている。					
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、状況や困っていること、不安なこと、思いなどを、お聞きしている。また施設の内容や雰囲気をご理解いただけるよう説明を行っている。					
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に、利用者の状況、ご家族様の希望や思いを聞き取り、支援を見極め必要に応じて関連施設の紹介を行っている。					
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者本人の出来ることに着目し、職員と一緒にいったり、また教えていただくなどし、お一人お一人が思いや生活歴を反映できるよう努めている。					
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話などにて日々の様子を報告し、利用者本人の思いなどを伝えている。家族の方と共に考え相談できるような関係を築けるよう努めている。					
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの友人が訪ねてきたり、花見遠足などで馴染みの場所に行くなどの支援を行っている。また、長期に入居されている方はホーム自体が馴染みの人や場所となっている。					
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の個性や相性などを考慮し、孤立しないように、共に楽しめるようにレクや作業をしていただいている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居・入院となった利用者に対しても本人への面会などを行い、関係が途切れないように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本人の希望、意向を受容できるようによく話を聞くように努めている。また本人からお聞きする事が困難な場合には生活の様子をよく観察し思いを汲み取ることが出来るように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や職業・家族構成なども把握し、適切なサービスへとつないでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方が何が出来るのか、どんなことがことを好まれるかなどその方のらしさを大切に、また日々の表情や状況を観察し状態を職員全員が把握できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の思いを聞き、介護計画に取り入れるよう努めている。職員全体で情報を共有し意見を出し合い作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録に介護計画を挟み介護記録を記入している、また申し送り時に話し合い情報を共有しより良いケアの実施、介護計画の見直しに生かせるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隣接する施設の意見を取り入れ栄養状況や急変時の対応など知識を提供してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の慰問や隣接施設への訪問・合同行事なども行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に利用者・家族に希望をお聞きし、納得いただければ、協力病院の医師がかかりつけ医となり問診診療や訪問歯科にて適切な医療が受けられるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や異常があれば、週1回の訪問看護以外でも密接に連絡をとり適切な医療や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療を通じ、普段から医師へ利用者の状況を密に上申し、入院時に適切な判断を行えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族に対し重度化した場合の対応について説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを作成し、勉強会などで全職員に伝えている。消防署の協力を得て蘇生術やAEDの使用法を実習し、スキルアップに努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルを作成している。避難訓練を行っているが、地域住民との合同訓練などは行っていない、民生委員の方にご協力していただけるようお願いし検討いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	那賀川	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや対応の見直し、過度の介護を行わないように留意し、自尊心を傷つけないように対応している。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できる状況や環境づくりに努めている。意思表示が困難な方に対しては職員が日頃の生活の中から思いを汲み取るように努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の内容は臨機応変に変更し、ご利用者様のペースで過ごしていただけるよう努めている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の状況に応じて声かけや介助を行っている。移動散髪を利用されている利用者は好みの髪形にしてもらうなどおしゃれを楽しまれている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が同じテーブルで食事をとり、会話を楽しまれている。また、可能な方は下膳やテーブル拭き、お盆拭きなどをお手伝いいただいている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量のチェックを行っている。食事の形態や好みに合わせて個別にメニューの変更なども行っている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、全利用者に口腔ケアを実施して頂いている。協力歯科医のアドバイスも頂き、口腔内の清潔保持に努めている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			那賀川 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄パターンやサインを理解するように努めトイレで排泄していただけるように支援している。失禁時には自尊心にも配慮するようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い献立で食事を提供し、運動と水分摂取を提供できるように心掛けている。毎日の排便チェックから、必要場合は医師の指示を頂き適切に対処している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	可能な限り利用者様の希望やタイミングに合わせて入浴して頂いている。また、季節に合わせてゆず湯なども提供している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	故人の生活リズムを把握しその日の体調や状況に配慮している。夜間に眠れない時などには職員が助言や話し相手になるなどで対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の投薬内容を把握し、異変がある場合は看護師、医師へ報告し指示を仰いでいる。服薬ミスがないように複数の職員による確認を行っている。調剤薬局の薬剤師からの助言等も頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションや作業に参加して頂いたり、季節に応じた行事外出なども企画し参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に沿って外出や外泊が出来るように家族の協力も頂き支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	那賀川	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
				実践状況		実践状況		実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		施設内ではほとんど使用する機会がなく、トラブル防止のため現金の管理は事務所で行っている。買い物に行くときにはご利用者自身が支払いできるように支援している。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		希望に応じて家族に宛てての手紙や電話を掛けていただけるように支援している。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		温度や湿度には常に気を配り、玄関やホールには季節に応じた環境作りをしている。ホールからベランダに出て季節を感じることができる。日当たりの良い場所にてファーを置きゆったりした空間作りに努めている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		食堂ホールでは仲の良い利用者同士で隣に座れるように配慮している。少し離れたソファーなどで独りになることは可能である。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		基本居室は自宅と変わらない環境を整えて頂けるよう配慮している。テレビやラジオ写真などの他にも馴染みのある物を持って来られている。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		利用者個々の身体状況に配慮し、必要に応じて介護ベットを使用したり室内環境を整えている。浴室は手すりを多く設置し、安全確保を図っている。				